

8 明治9年2月8日 菊池長閑

第二号

第五号十一月十八日附一月

(廿一日達)

十五日第六号十二月六日附

一月廿二日達即四十八日無事勉学之由安心大喜此地依旧消光せり養生之事呉々厚配被申越忝候免角数千里外ニ懸隔居れハ互ニ無事而已祈故不忘候得共来翰已来一層心懸毎朝東方へ向て新空気を吸し節食ハ兼而より心懸居候得共是又慎可申間安心可給候於当県更異事無之寒氣十五度位も有之候得共時として之概して云ハ例年ハ凌易き方雪も思外薄く最早寒明にも成り道路泥を催し春めかしく折々寒雪氣ニ成れ共格別之事も有之間敷候」朝鮮事件未だ黒白判然ならざる由窃に聞くニ黒田井上両公ノ使節ハ癸丑米人始而到来之意味にて両公ハ即ヘルリ朝ハ即日本と見做しかに候当年上筋五十年來之豊熟にて東京至而米価安く此地ハ為登候而ハ不利なる故米商人ハ朝鮮事件大く成ると心願かと候米価騰れハ商人ハ不及申正租上納にも至極すれとも田地抔にしてハ後年の大障リニ成又格別易けれハ後年之為に能けれ共其年分ハ苦しく随分六ヶ敷世態と成□も大分身代限りも相聞得も中には実に借入たる□本宿從七位之事未承同人も旧冬箱館ハ歸艦□有之宮古エ間懸り宿元エ一泊久々には家内□ニ候得共午後ニ着して翌朝出立之由お直なと

ハ夢の心地候半此度ハ朝鮮へ参候よし」月費不少ハ驚入候貯金遣尽も無抛由内之事ならハ多少資送候ハ用弁ニ可至候得共陸中ハ如何ともする不能残念ながら届兼候」八戸侯も米国御留学之処御病氣にて当年ハ御帰朝其節英丸君も御同道之趣昨今新庄にて承り最早御出発ニ候哉御別れ申節ハ御互御名残惜候事と察候」写真郵便ニ出してハ不安心ニ付那珂へ托し置候旨河上ハ申来待居候処去ル二日ニ相達候出帆際之写真ハ肥たり安心大慶いたし候例口癖

ことなきを告る便りは文よりもおもて写す姿なりけり

一笑可給候写真之手際驚怖東京之手際見るニ不足ニ成候況や此地之物ニ於をや家族之写真決外国人之前ニ不可出当県之外聞ハ則皇国ニ係候第五号ニ三人写と申参候得共此度ハ貴様一人写ニ候行違申間敷哉」佐土原侯之幸便聞能方如何共思ふ様ニ不俄故博覧会懸り二月ハ出帆ニ付少々之物ハ二月迄ニ遣候様那珂ハ一月八日附ニ而申来候得とも何れ之遅滞か」如斯不早俄取上此地ハ幸便至而」居候処来月十一日荷廻出立之趣ニ候間松ノ実」箱那珂氏まで托し可遣候何卒問合候様祈居候」一条治士喜代司事秋田ハ此地エ十一月着五三日滞在同三十日東京へ出発小細丁鍵やニ同居之趣ニ候藤次郎ハ秋田阿仁と申処ニ在勤ニ候」此方ハ之書状達候ハ何号達と申義書送り可申候先返事旁右申入候也

武夫殿

長閑

(封筒表)

「亜米利加国ポストン府

ポードウイン。ストリート二十二番地

□ 池 武 夫 殿

□ 報平安

(封筒裏)

「日本陸中国岩手県盛岡

第一大区五小区加賀野

八十六番地

菊 池 長 閑

二月八日発